

＜書 評＞

Orthopaedic Traction Manual

Andrew F. Brooker, Jr., Gerhard Schmeisser 共著

新名正由 訳（防衛医科大学校）

牽引治療マニュアル

桜井 修（兵庫医科大学）

最近になって、わが国においても、ようやくプライマリ・ケアという言葉が普及して来た。

外傷治療は、いつの時代にあっても、医学の最も普遍的なプライマリの問題であるが、わが国では教育病院の入退院機構に問題があるため、どちらかという小規模の救急病院で扱われる事が多く、その意味で医学教育においても軽視されがちである。それだけに外傷治療の細かい理論、手技を述べている教科書も少ない。

米国の医学教育においては、早期から実地のプライマリ・ケアを重視し、専門家になる前に一般医として

の実力を高めておこうとする傾向が強い。救急、外傷治療は、大学教育ならびに卒後教育の重要なテーマとしてとりあげられており、水準が高い分だけ実際のよい教科書、手技指導書も多い。

本書は有名な Johns Hopkins University の 2 人の teaching staff によって著されたものであるが、一読して米国における外傷治療学の充実性を感じることが出来る。

著者、訳者ともにのべているように、近年骨折に対する華やかな手術的治療が人目をひくが、それによって保存的治療の価値が減じたわけではない。とくに牽引法は、外固定法

とともに整形外科保存療法の双壁をなすものであるが、適切に行なわれた牽引療法によっては、しばしば手術以上の機能的回復を期待出来るものである。

内容は、はじめに牽引治療の目的と限界を明らかにし、器具についてのべた後、脊椎、上肢、骨盤、下肢に分けて、くわしく述べている。各項目は適応、方法とリスクに分けて詳細に記載されており、図も鮮明で判りやすい。

例えば大腿牽引における牽引スプリントと、ピアソンアタッチメントの注意などは、多数例の経験から得たもので実用性が高いのみならず理論的にもすぐれている。

新名先生の邦訳はみごとで、訳語に抵抗が全く感じられない。携帯に便利な本の大きさ、簡便さとともに、外傷、整形外科にたずさわる医師、ナースの臨床座右の書として推薦したい。

（A 5，頁128，図52，¥2,300，1983，医学書院刊）